

ハッピーキャス 600PP-E

再使用禁止

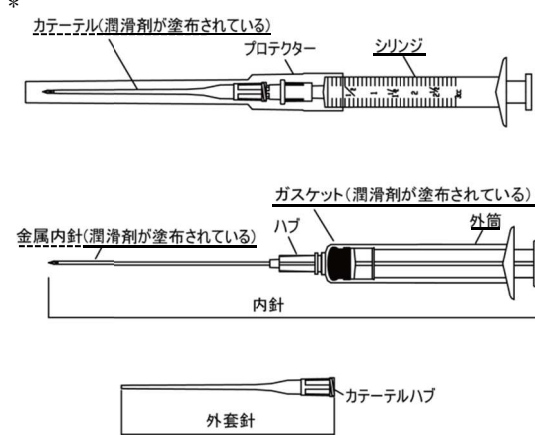
**【禁忌・禁止】

<使用方法>

- ・再使用禁止
- ・再滅菌禁止
- ・腹部、胸部ドレナージ用に使用しないこと。[カテーテルが破断、キンクする可能性がある。]
- ・使用前及び穿刺中に、外套針の中で内針を前後に動かさないこと。[カテーテルが損傷し、カテーテルの破断、外套針からの漏血を生じる恐れがある。]

【形状・構造及び原理等】

** <各部の名称> (代表図)



** <材質>

* 外套針	カテーテル	: ポリプロピレン
	カテーテルハブ	: ポリプロピレン又はポリ塩化ビニル
内針	潤滑剤	: シリコーン油
	金属内針	: ステンレス鋼
	ハブ	: ポリカーボネート
シリンジ	潤滑剤	: シリコーン油
	外筒	: ポリプロピレン
	ガスケット	: スチレン・ブタジエンゴム
	潤滑剤	: シリコーン油

<原理>

血管に穿刺し、内針を抜去して外套針を血管に留置する。外套針に血液回路を接続して、血液透析時のブラッドアクセスとなる。

* <製品仕様>

カテーテル外径	色 (カテーテルハブ)
14G(2.1mm)	pale green
15G(1.9mm)	blue-grey
16G(1.7mm)	white
17G(1.5mm)	red-violet

** 外套針流量※

外径 (内径)	有効長 (mm)	外套針流量(ml/min)	
		側孔無し	側孔有り
14G (16G)	44	307	317
15G (17G)	44	260	274
16G (18G)	44	195	209
	48	188	202
17G (19G)	44	138	148
	48	130	139

※JIS T3249 血液透析用留置針 附属書 F 流量の試験方法 (高さ 100mm から落下させた水量を測定) に従って測定した実測値。

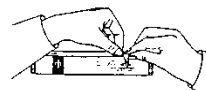
* 【使用目的又は効果】

人工腎臓透析を含む血液浄化療法を行うための非金属製の血管留置針である。

【使用方法等】

1. 包装を開封する。

- ** 【注意】 包装の開封は、下図のように包装フィルムをつまんで1本ずつ開封すること。このとき、包装フィルムと一緒に製品を握らないこと。



[包装フィルムと一緒に製品を握った場合や、あるいは数本まとめて開封すると内針を曲げる場合がある。]

- ** 2. シリンジを持ち、針先を傷めないようにプロテクターを外し内針先端の状態を確認する。カテーテルが内針先端に覆い被さっている場合は、カテーテルハブが内針ハブに接触するまで引き戻す。また、穿刺する前に、カテーテルハブを左手で保持した後、ハブを右手で保持し、ハブを後端から見て反時計回りに半回転移動かし、内針とカテーテル先端の密着状態を外す。

【注意】 プロテクター内部に針先が接触しないように注意すること。

- ** 【注意】 シリンジがハブと緩みなく嵌合していることを確認すること。また、シリンジを外さないこと。

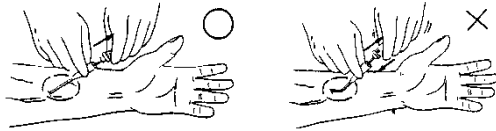
- ** 【注意】 穿刺前に必ず内針を回転させる操作を行うこと。[密着によりカテーテルを血管内に送り込めない恐れや抜去の動作時に血管を傷つける恐れがある。]

3. 刃面の向きを確認し、シリンジを持ち穿刺する。

【注意】 外套針を持って穿刺しないこと。[内針が後退し穿刺できない場合がある。]

4. 血液の逆流を確認した後、内針を抜き去る。

【注意】 内針は、カテーテルを真直ぐにして引き抜き、カテーテル内で前後に動かさないこと。



【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：東郷メディキット株式会社

住所：〒883-0062 宮崎県日向市大字日知屋字亀川 17148-6

電話番号：0982-53-8000

販売業者：メディキット株式会社

住所：〒113-0034 東京都文京区湯島 1 丁目 13 番 2 号

電話番号：03-3839-0201



- ** 5. カテーテルハブに血液回路を緩みなく接続する。
- ** **【注意】** カテーテルハブと血液回路の接続時にカテーテルハブと血液回路がロック式のネジで緩みなく接続されていることを確認すること。[ネジの締め付けが不十分な場合、十分なエアフィッティングが得られず、回路の離脱や漏れの恐れがある。]
- 【注意】** ロックする際、カテーテルをねじらないように注意すること。
- ** **【注意】** カテーテルハブと血液回路を接続するとき、過度に締め付けないこと。[接続部が破損するおそれがある。]
6. 外套針及び血液回路のチューブをテープ等で固定する。
- 【注意】** 血液回路のチューブは輪状にして固定すること。
- 【注意】** 外套針を屈曲部に留置する場合は、屈曲部をシーネ等で固定すること。
- 【注意】** 穿刺部位は上向きにし、穿刺部位を圧迫するような状態は避けること。シーネ等の利用が好ましい。

【使用上の注意】

- ** **＜重要な基本的注意＞**
- ・カテーテルを鉗子で挟んだり、指、爪でつぶしたり、キンクさせたりしないこと。
 - ・留置中はカテーテルにキンクが生じていないか十分観察を行い、カテーテルのキンクを確認した場合は、留置を中止し、代替りの製品を使用すること。[キンクした状態で留置を続けるとカテーテルに繰り返し屈曲の力が加わり、破損する恐れがある。]
 - ・ハブへのアルコール、消毒液、局所麻酔剤等の薬液の付着は避けること。
 - ・透折終了後、外套針を抜去する際に抵抗を感じた場合、無理に引き抜かずエコー下で血管内でのカテーテルの状態を確認する等処置を講ずること。

- ** **＜不具合・有害事象＞**
- 本品の使用により、以下のような不具合・有害事象が発生する恐れがある。
- 重大な不具合**
- 気泡の混入、キンク、破断、回路の離脱、漏れ

重大な有害事象

血流不足、静脈圧の上昇、血管穿孔、動脈誤穿刺、神経損傷、血腫形成、血管閉塞、空気塞栓症、菌血症、敗血症

【保管方法及び有効期間等】

＜保管方法＞

水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。

＜有効期間＞

包装の使用期限を参照。（自己認証による）

- ** **＜使用期間＞**

外套針の留置時間は最大 8 時間を目安にすること。[カテーテルが破断、キンクする可能性がある。]